

教育長室からのお知らせ NO. 64(令和2年11月)



教育長 田中 庸寛

錦秋の候、山からの紅葉の便りに加え朝晩の一層の冷え込みに、秋の深まりを感じています。

今年度、市川市教育委員会では、11月2日(月)を「休業日」とし、10月31日(土)～11月3日(祝)までの4日間をいわゆる「秋休み」としました。コロナ対応の一つとして、子どもたちの心身のリフレッシュに少しでも資するものとなっていれば、幸いです。

さて、「実りの秋」を迎え、先日は、市立幼稚園の運動会を参観いたしました。各園とも、適切な「3密対策」のもと、一人一人の園児たちが目を輝かせながら元気いっぱい活動する姿に接し、嬉しくなりました。特に、年長組の子どもたちが、頼もしく自立して活躍する姿には目を見張るものがあり、成長ぶりを実感しました。

現在、学校・園では、運動会・体育祭に限らず、あらゆる教育活動において、中止・延期・削減・制限等を余儀なくされています。しかし、そのような状況の中で、各学校・園では、急激な変化を前向きに受け止めていただくとともに、子どもたちの学びの質を高め、より豊かなものにするために、学校の実態に合わせて、創意工夫と試行錯誤を重ねながら、新たな取組みにチャレンジしています。

人工知能(AI)やInternet of Thing(IoT)等の先端技術が高度化し、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0の時代」、変化が激しく将来の予測が困難な「VUCA(変動性、不確実性・複雑性・曖昧性を意味する英語の頭文字)な時代」にあって、学校教育では、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることができるようにすることが重要です。

今年度を学校教育の「変革の年」とし、今後も学校・園の主体性を発揮しつつ、新学習指導要領を着実に実施し、新しい時代の学校づくりへ向けて確かな一歩を踏み出していけるよう教育委員会として支援してまいります。